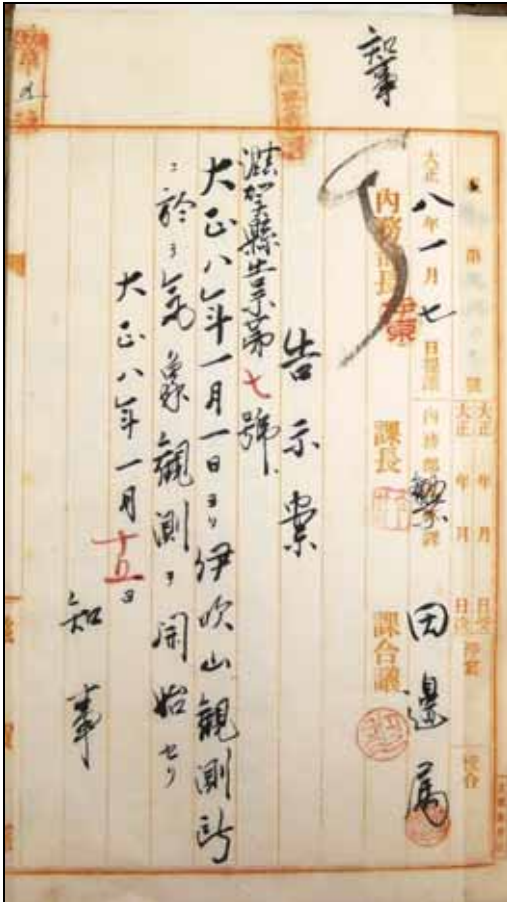


展示「滋賀の積雪 - 大正・昭和初期の冬 - 」

平成 23 年 2 月 14 日 ~ 3 月 18 日

伊 吹 山 観 測 所

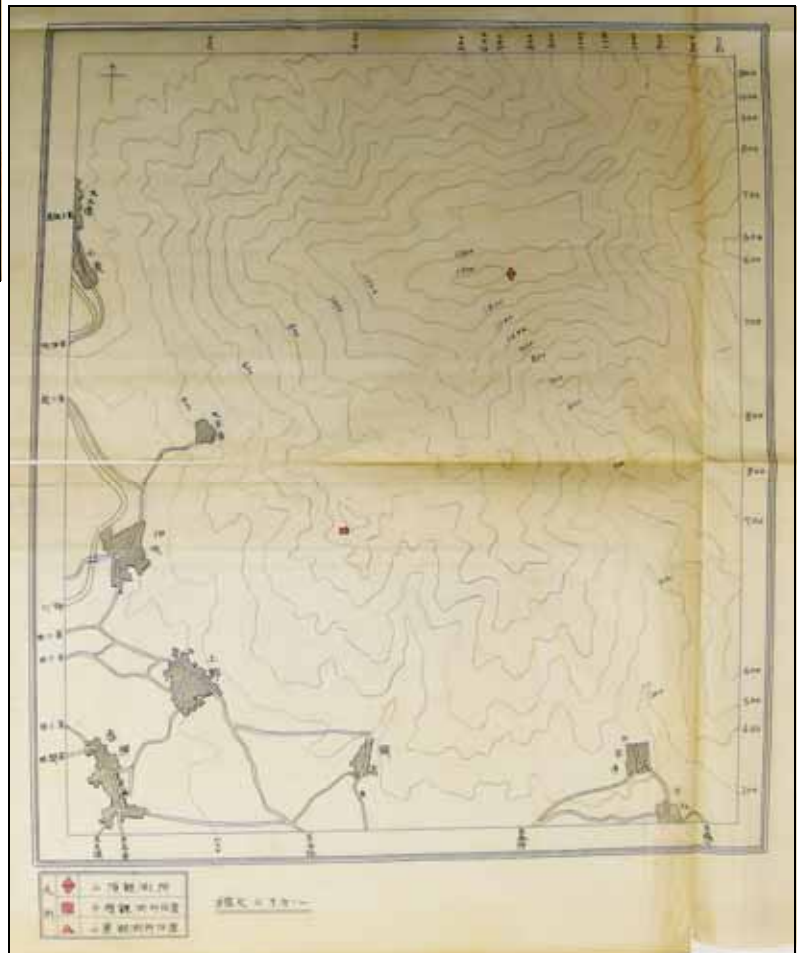


「伊吹山観測所気象観測開始」

大正 8 年(1919 年)

伊吹山観測所は高山の立地を利用して、高層気象の研究のため設立され、平成 13 年(2001 年)まで 1 世紀近く観測を続けた。

日本の最深積雪記録、昭和 2 年(1927 年)2 月 14 日の伊吹山山頂での 11.82m の積雪はここで観測された。



「伊吹山観測所地図」

大正 9 年(1920 年)頃

海拔 1,377m の山頂に伊吹山観測所、その山麓の春照(米原市春照)に伊吹山山麓観測所が作られた。

竹筒	七	スキー	カントリー	外套	鍋	茶金	湯沸	ワニス	煙台	自來水	國	樽
一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個	一個
九〇〇	二四〇	一四二五	八〇〇	七〇〇	不	八五〇	二〇〇〇	一五〇〇	不	不	一六五〇	九八〇
三六〇〇	二四〇	一四二五	三二〇〇	二一〇〇	不	三四〇〇	四〇〇〇	一五〇〇	不	不	三三〇〇	一九六〇
大正十年七月		大正九年二月	大正九年二月	大正七年十月		大正八年十月	大正七年二月	大正八年六月			大正十年四月	大正十年七月

乳鉢	刷毛	陶器	湯沸	水壺	洗面器	椅子	踏台	ゴイツキ	鐵力
一個	二枚	二個	二個	一個	二個	一個	二個	二個	二個
五〇〇	二五〇	三〇〇	三二〇	二八〇	二九〇	二五〇	一三〇	五〇〇	三〇〇
五〇〇	五〇〇	六〇〇	五一〇	二八〇	二九〇	二五〇	二六〇	一〇〇〇	六〇〇
大正七年十月					大正十年五月	大正七年十月			

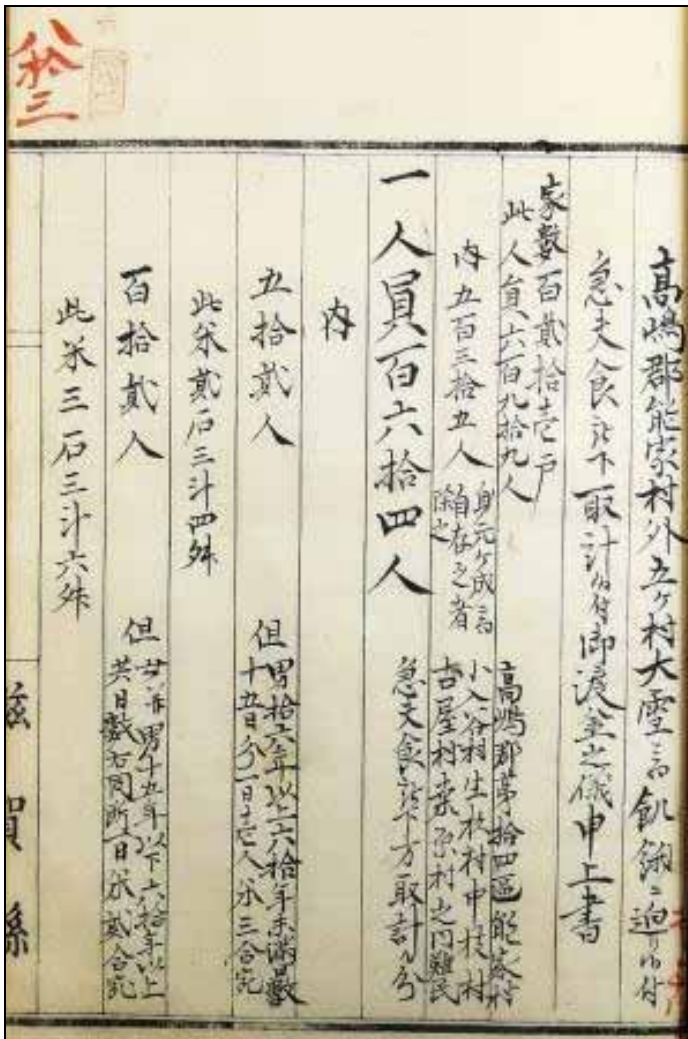
(上) 「伊吹山備品調書」 大正 14 年(1925 年)
 伊吹山観測所の備品には計測器機のほかに「飲料水運搬器」や「ゴイツキ(雪かき用鋏)」「スキー」「外套」などが見える。他のページには「火鉢」なども書かれている。

雪 の 観 測

(右)「滋賀県告示第 227 号 彦根測候所地方暴風警報・地方天気予報規定中改正」
 大正 7 年(1918 年)8 月 31 日

明治 38 年(1905 年)の告示で定められた天気予報の信号標では、雪は緑の四角旗 1 種類だった。
 この改正で「晴時々少雪」「曇時々少雪」「雨又は雪」の 3 種類の信号標が追加されている。

赤	白	赤	白	赤	白	赤	白
曇	晴	曇	晴	曇	晴	曇	晴
少	少	少	少	少	少	少	少
雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪
雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨
又	又	又	又	又	又	又	又
雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪	雪



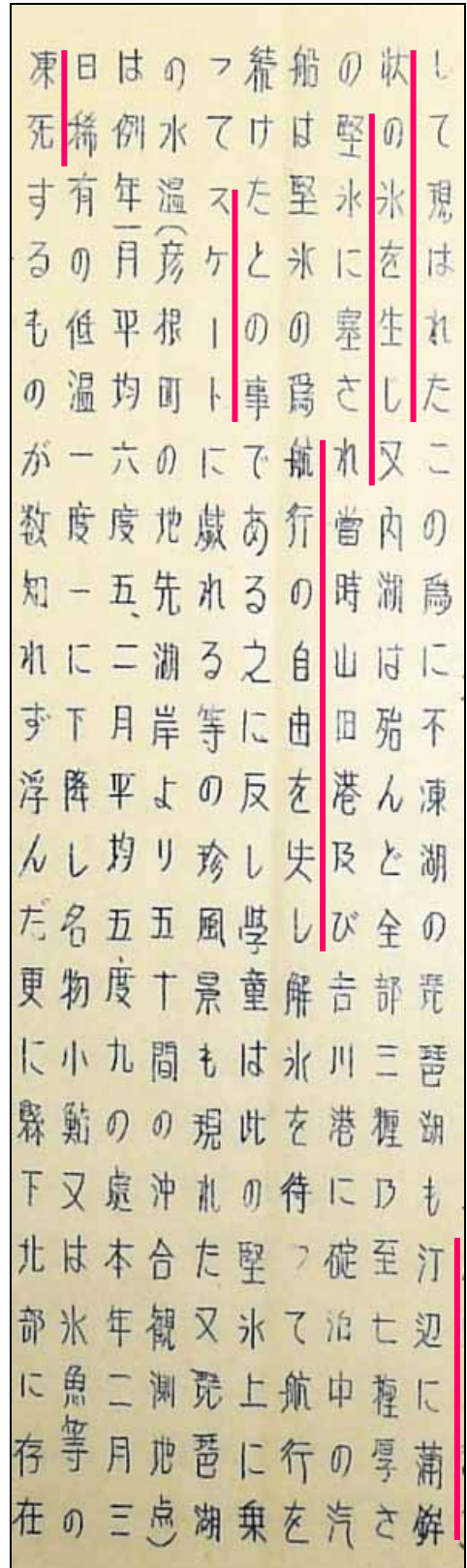
(上)「高島郡能家村外急夫食御渡金の儀申上書」
明治8年(1875年)

この年は13年ぶりの大雪で特に山間の村落では貧窮者が出たという。能家村などの164人分の夫食(救済の食料)5石7斗分の出金を当時の大蔵卿大隈重信へ県が依頼している。

(右)「昭和10年より同11年に至る冬季に於ける滋賀県管内の大雪調査概要」

昭和11年(1936年)

昭和11年の大雪は彦根測候所「創業以来のレコード」だった。琵琶湖では「汀辺に蒲鉾状の氷を生じ」、内湖は「堅氷に塞され」、山田港(草津市北山田町)などでは停泊中の汽船が「航行の自由を失し」た。子供たちは氷で「スケート」を楽しんだが、水温が下がったため小鮎は「凍死」したという。



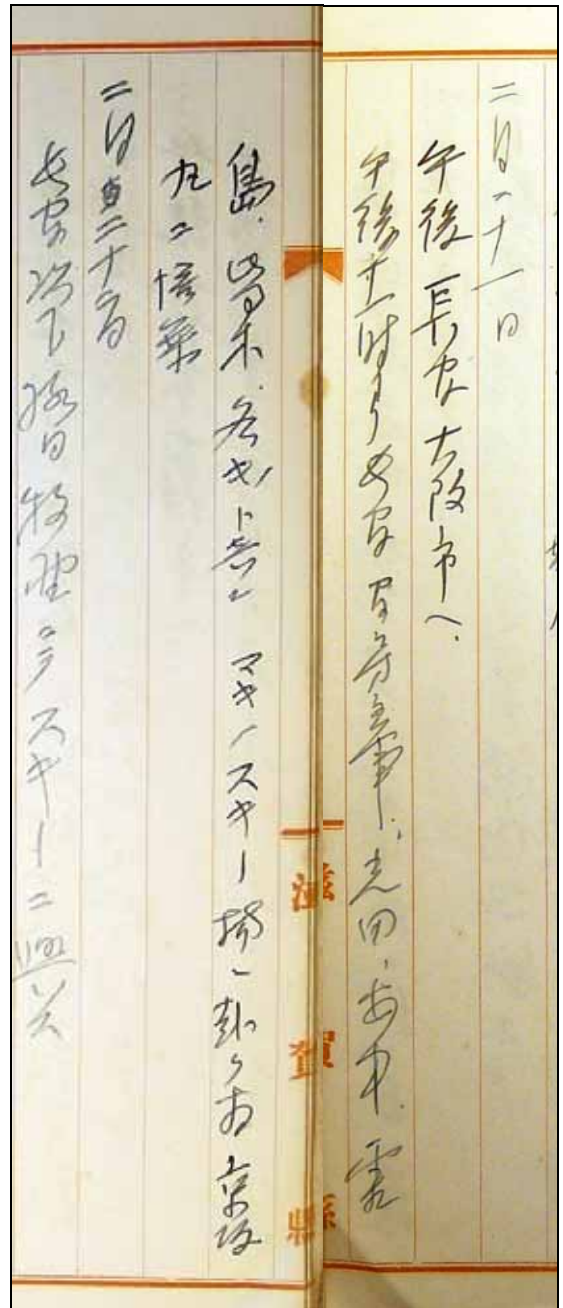
傍線はHP作成者による

『日誌』 知事官房

昭和6年(1930年)2月21日、22日

高島郡のマキノ・スキー場は昭和4年(1929年)に開場した。

知事官房の日誌には、知事や庁内の動向などが毎日、簡単に記されている。昭和6年1月末に着任した除野康雄知事は、前年から運行を始めた太湖汽船のスキー船「京阪丸」を利用して、2月22日(日曜)に「終日牧野にてスキーに興」じたと記録されている。



『湖国聚英』

「牧野スキー場」

昭和11年(1936年)

滋賀県発行

滋賀県立図書館蔵